

山口県子どもの生活実態調査[支援者アンケート調査]

報告書

1. 支援者アンケート調査の実施について

実施目的

本県の子どもの生活実態を把握するため、子ども本人とその保護者を対象にアンケート調査を実施するのにあわせ、支援者側から見た困難な環境にある子どもの状況、活動の実態やニーズ等を把握するため、子ども食堂・地域食堂や学習支援の運営者に対しアンケート調査を実施しました。

実施要領

調査対象：県内の子ども食堂・地域食堂や学習支援の運営者：40、運営か所：57

調査方法：メール・郵送等による配布・回収

調査期限：令和元年11月20日～令和元年12月16日

回答数：運営者：23 運営か所：34

回答結果：

配布数(か所)		回答数(か所)		回答率(%)	
運営者数	運営か所数	運営者数	運営か所数	運営者	運営か所
40	57	23	34	57.5	59.7

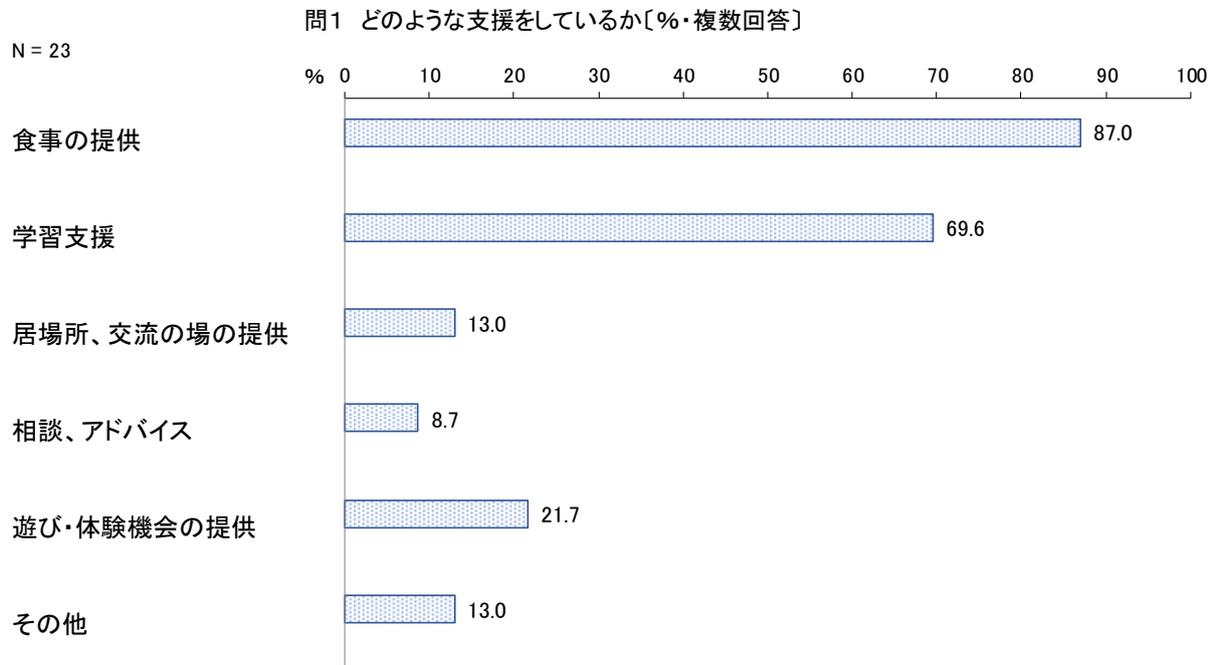
※1つの運営者が複数の子ども食堂等を運営している場合があり、複数の運営か所について、運営者としてまとめて1つの調査票で回答してきているものがあるため、運営者数と運営か所数は一致しません。したがって、調査票の回答数(運営者数)としては23件であるため、回答結果の各設問のグラフは、n(回答数)=23と表記していますが、運営か所数としては34か所に該当します。

備考：選択肢を選ぶ設問、意見を記入する設問があり、記入による回答は多い意見をまとめています。

2. 回答結果

問1 貴団体は、次のうちどのような支援をしていますか。(複数回答)

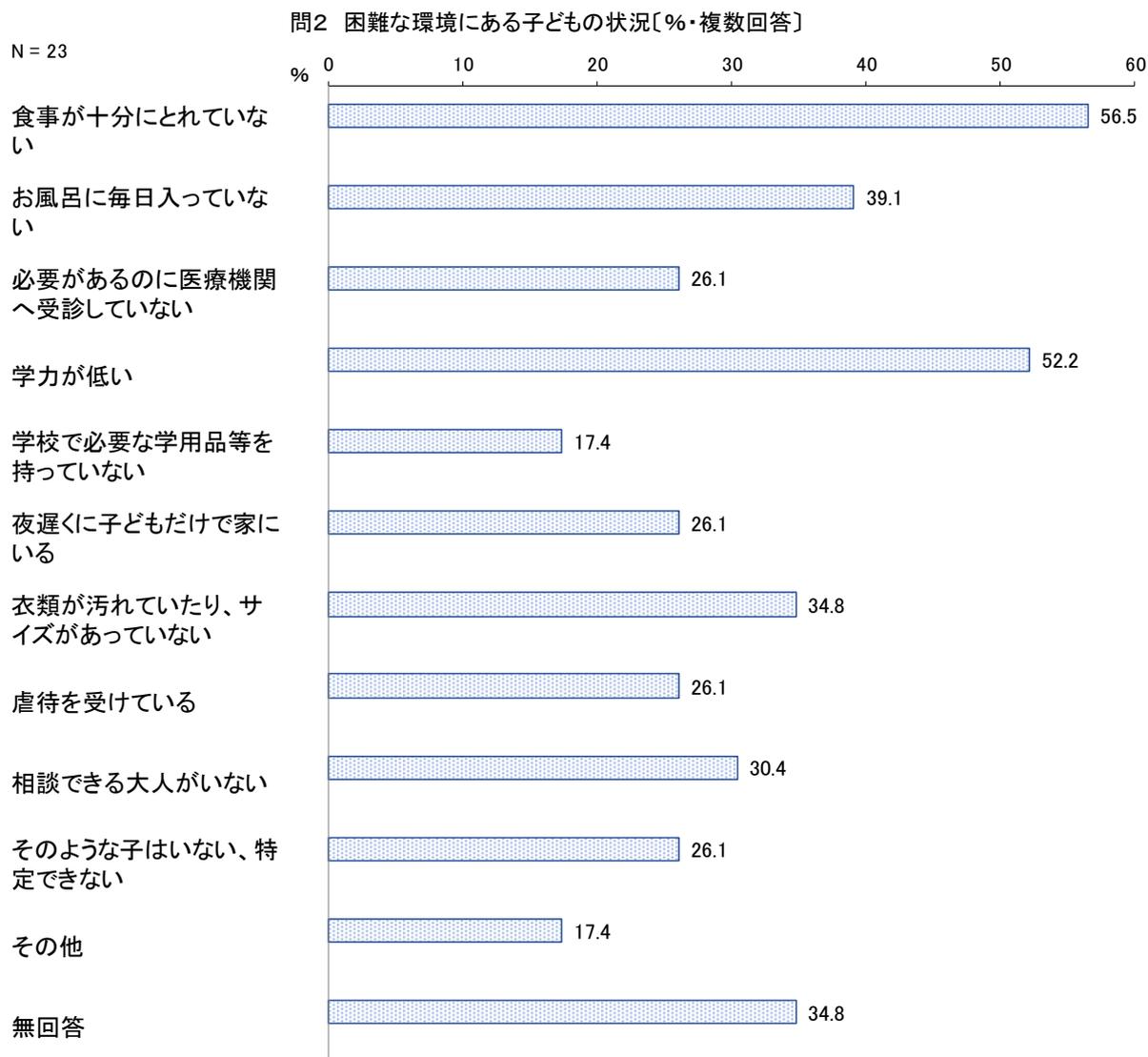
「食事の提供」が 87.0%、「学習支援」が 69.6%、「遊び・体験機会の提供」が 21.7% となっています。



その他では、「自閉症・発達障害児者と家族の支援・障害者の就労支援」、「食事・食糧・衣類等を自宅に届けるサービス。学校・学童での食事支援」や「登校支援」などの記載があります。

問2 これまでの支援の経験から、困難な環境にある子どもは、どのような状況におかれていましたか。(複数回答)

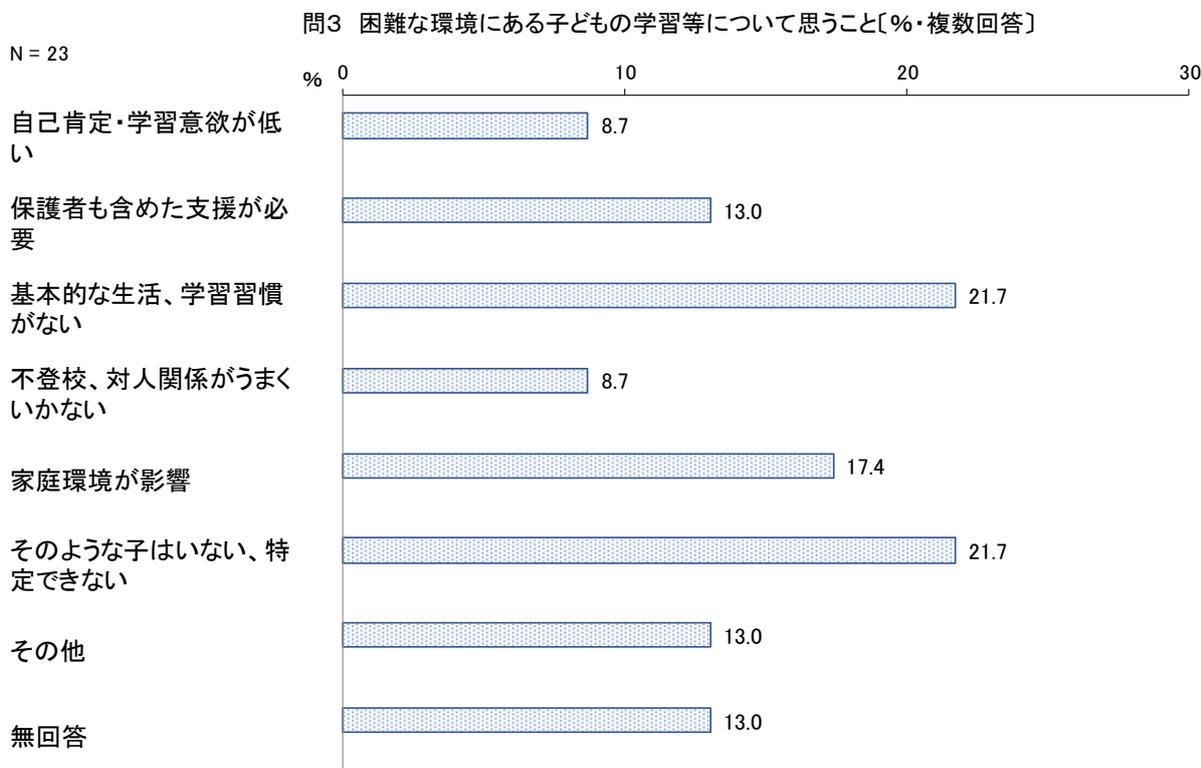
「食事が十分にとれていない」が56.5%、「学力が低い」が52.2%、「お風呂に毎日入っていない」が39.1%となっています。



その他では、「部屋が不衛生で散らかっている」、「お菓子ばかり食べている」、「勉強する部屋がない」、「多子家庭で経済的な問題を抱えている」、「親に精神疾患等があり不安定。」
「親が多忙で、親子関係が希薄」などの記載があります。

問3 これまでの支援の経験から、困難な環境にある子どもの学習の習慣・意欲、進学・通学状況等について、思われることがありますか。(意見記述)

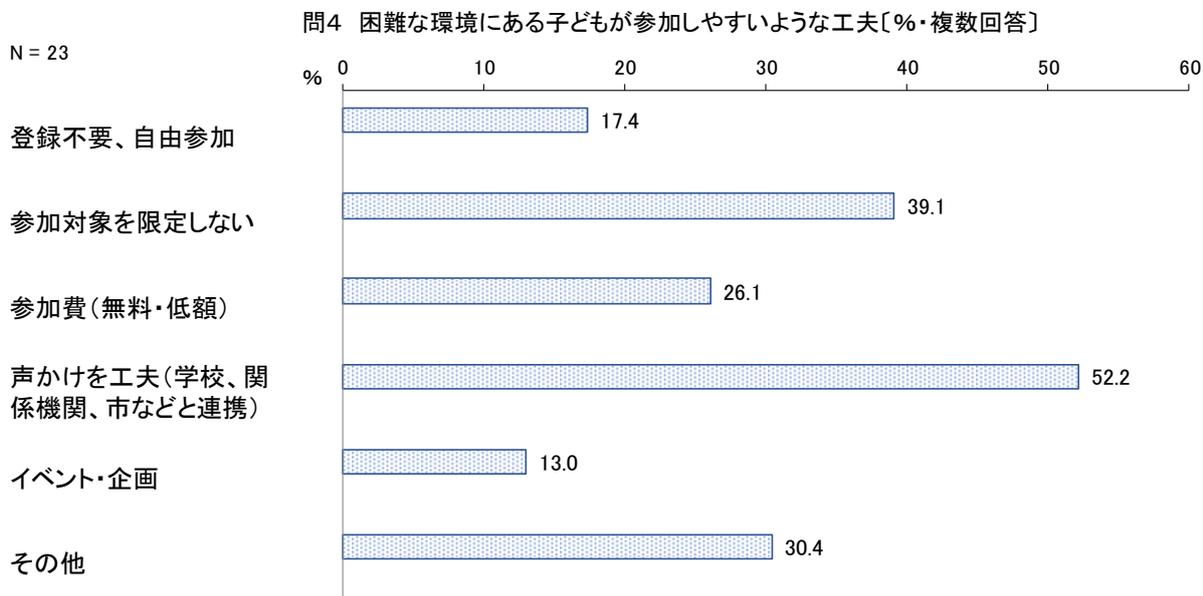
「基本的な生活、学習習慣がない」と「そのような子はいない、特定できない」がともに 21.7%、「家庭環境が影響」が 17.4%、「保護者も含めた支援が必要」が 13.0%となっています。



その他では、「外見ではわからない部分で、子どもたちはご飯が食べられない、勉強する環境がない、親が不在で子どもたちだけで過ごしているなど様々な困難を抱えている」、「小学校低学年から授業についていけないので、低学年からの支援が必要と感じる」、「スクールソーシャルワーカーが機能的に動いてほしい」などの記載があります。

問4 貴団体で実施している活動に対して、困難な環境にある子どもが参加しやすいような工夫をしていますか。(工夫をしている内容を記述)

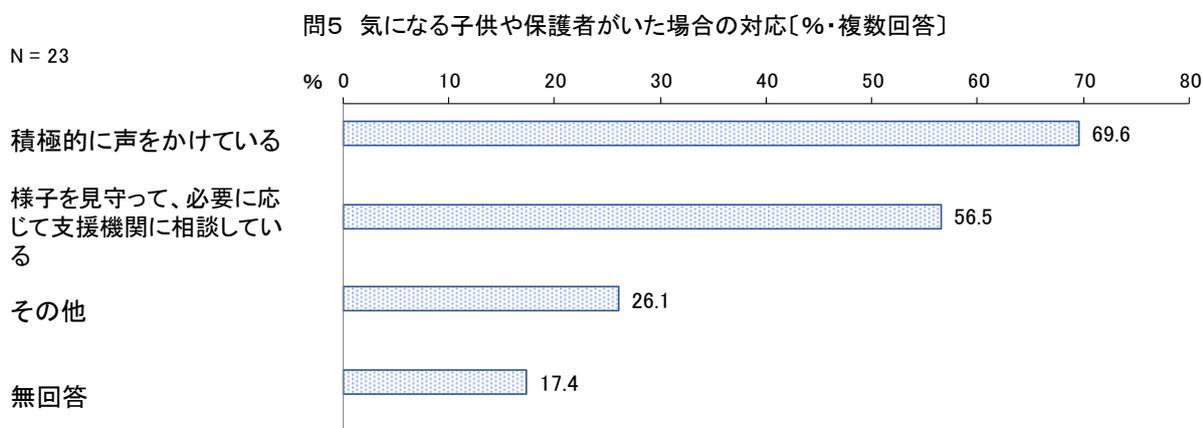
「声かけを工夫(学校、関係機関、市などと連携)」が52.2%、「参加対象を限定しない」が39.1%、「参加費(無料・低額)」が26.1%となっています。



その他では、「友達同士で誘い合って来るよう、お願いしている」、「ゲーム機の持ち込み禁止をルールにしている」、「食事は一緒に作って食べる(調理実習)」、「学習支援事業であるが、学習と併せて居場所的機能を果たすよう工夫している」、「開催日前に訪問し案内をしている」、「親の同意書がなくても通えるようにしている。親に同乗許可書をもって送迎をする」、「親への働きかけを積極的に行い、信頼関係を作る」などの記載があります。

問5 気になる子どもや保護者がいた場合、どのように対応していますか。(複数回答)

「積極的に声をかけている」が 69.6%、「様子を見守って、必要に応じて支援機関に相談している」が 56.5%となっています。

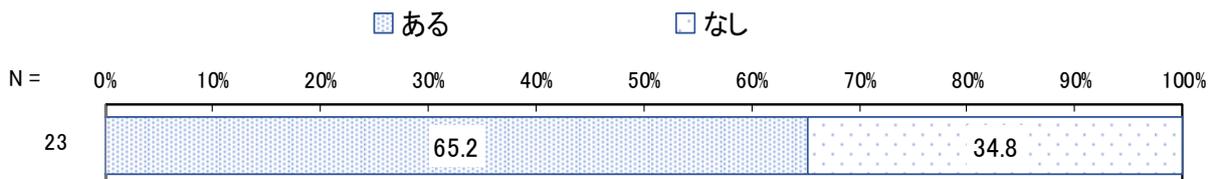


その他では、「まだ、そのような場面に遭遇していない」、「当法人が行っている別の活動にも参加するように声を掛け、様々な活動から多角的に気になる子どもと関わっていく」や「必要に応じて面談等を行い、食事支援・居場所支援など個別支援を提供している」などの記載があります。

問6 地域の方々や学校等の支援機関から、子どもや保護者を繋いでもらった経験はありますか。(単一回答)

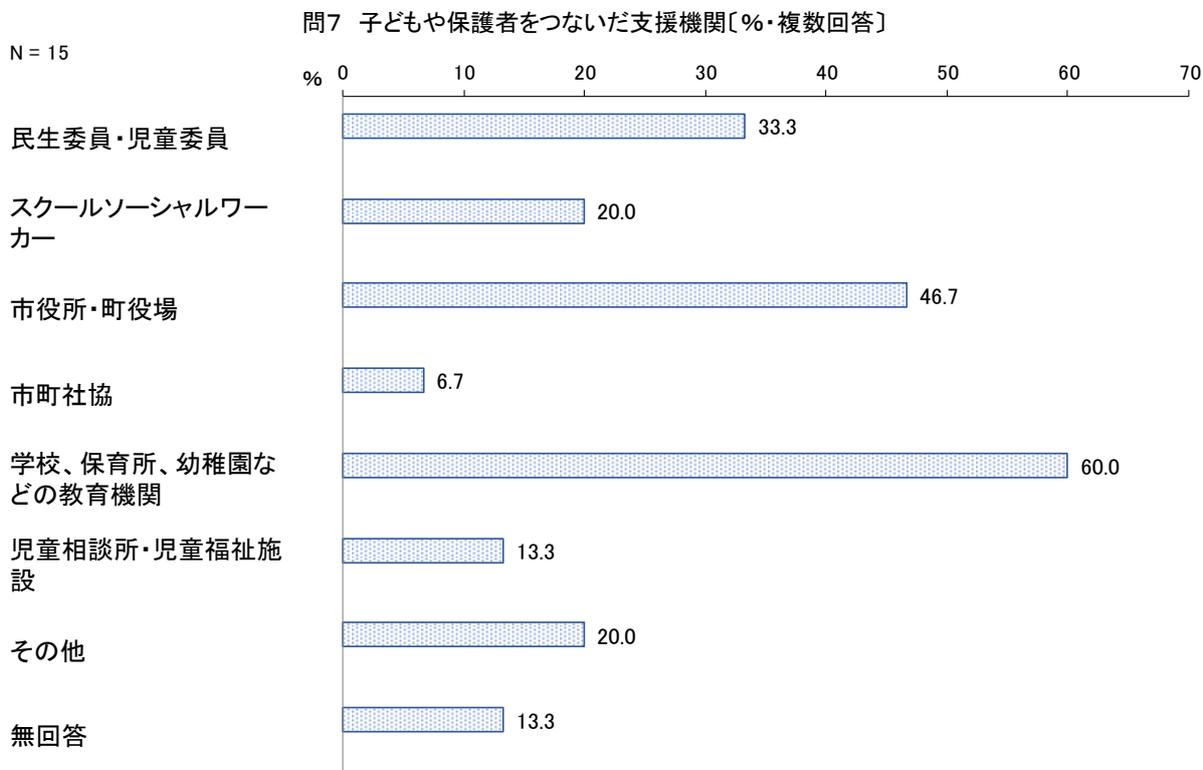
「ある」が 65.2%、「なし」が 34.8%となっています。

問6 地域の方や支援機関から子どもや保護者をつないでもらった経験の有無〔%〕



問7 (問6で「1. ある」と答えた方のみ) 子どもや保護者を繋いだ支援機関等はどちらですか。(複数回答)

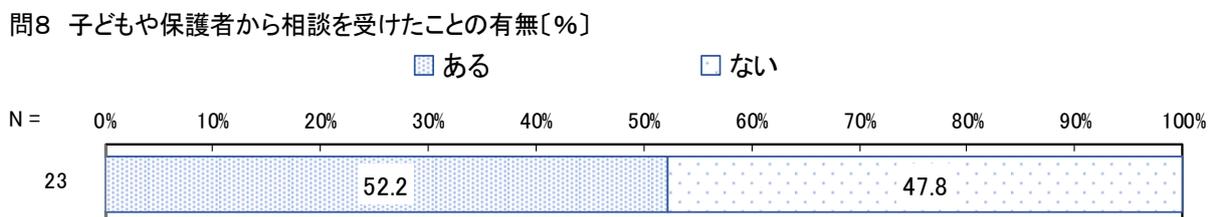
「学校、保育所、幼稚園などの教育機関」が60.0%、「市役所・町役場」が46.7%、「民生委員・児童委員」が33.3%となっています。



その他では、「弁護士」や「地域住民」などの記載があります。

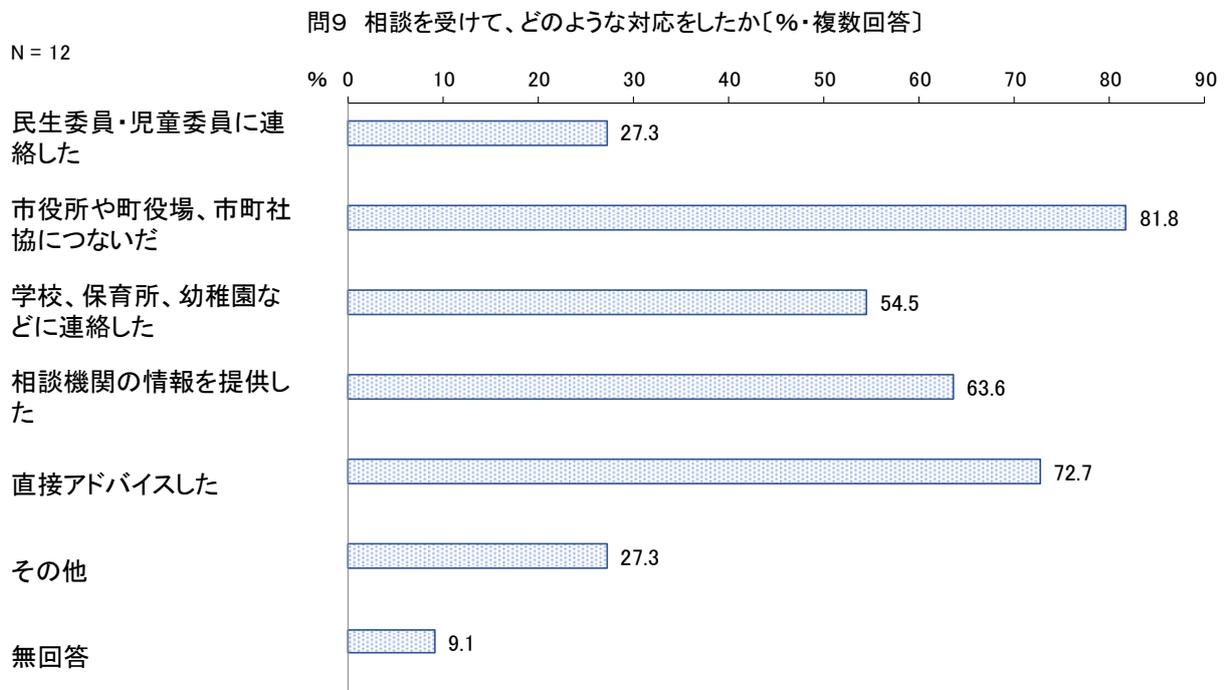
問8 これまでの支援の経験から、子どもや保護者から相談（経済的に苦しい、子育てに悩んでいる等）を受けたことはありますか。(単一回答)

「ある」が52.2%、「ない」が47.8%となっています。



**問9 (問8で「1. ある」と答えた方のみ) 相談を受けて、どのような対応をされましたか。
(複数回答)**

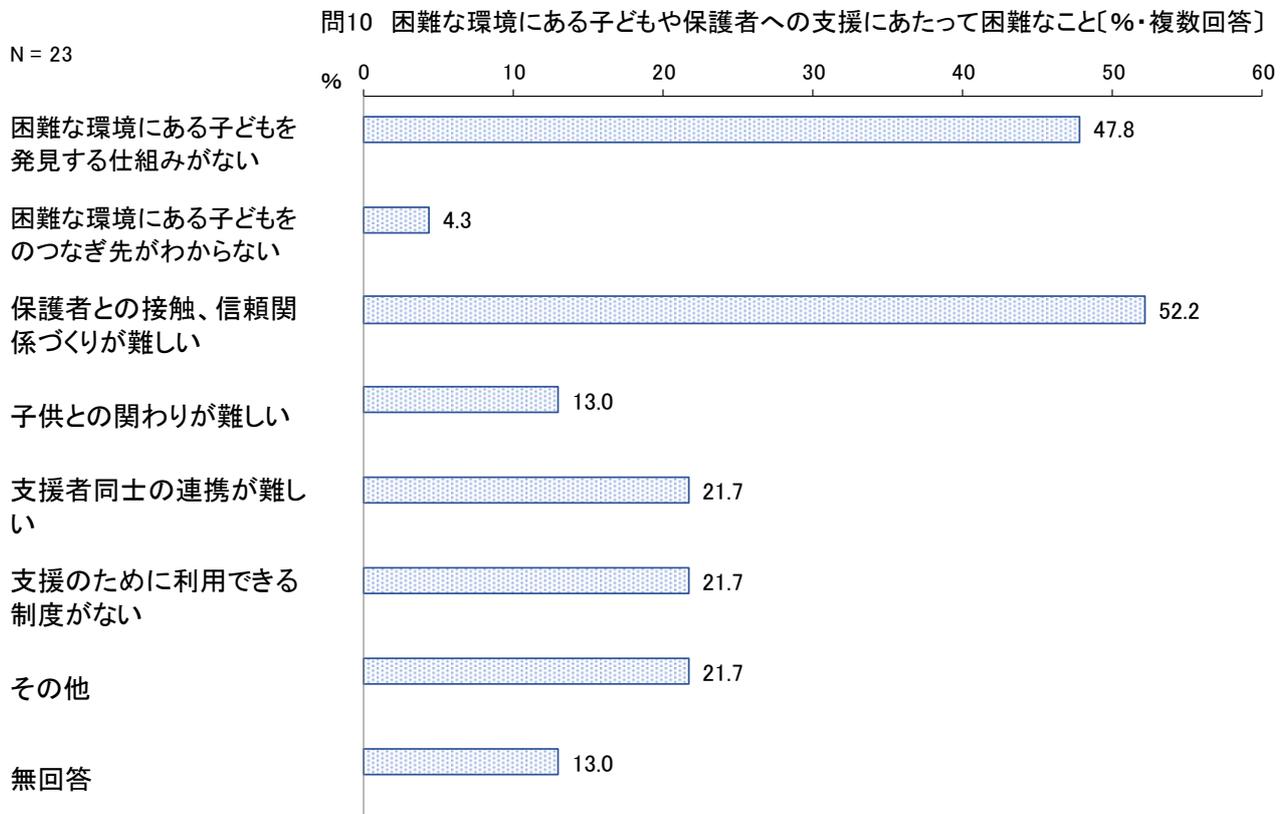
「市役所や町役場、市町社協につないだ」が81.8%、「直接アドバイスした」が72.7%、「相談機関の情報を提供した」が63.6%、「学校、保育所、幼稚園などに連絡した」が54.5%となっています。



その他では、「学校でケース会議を行った。市役所の担当機関と協議した」や「当団体が行っている活動や、ショートステイ事業に繋げた」などの記載があります。

問10 これまでの支援の経験から、困難な環境にある子どもやその保護者への支援にあたって、どのような点が困難であると感じていますか。(複数回答)

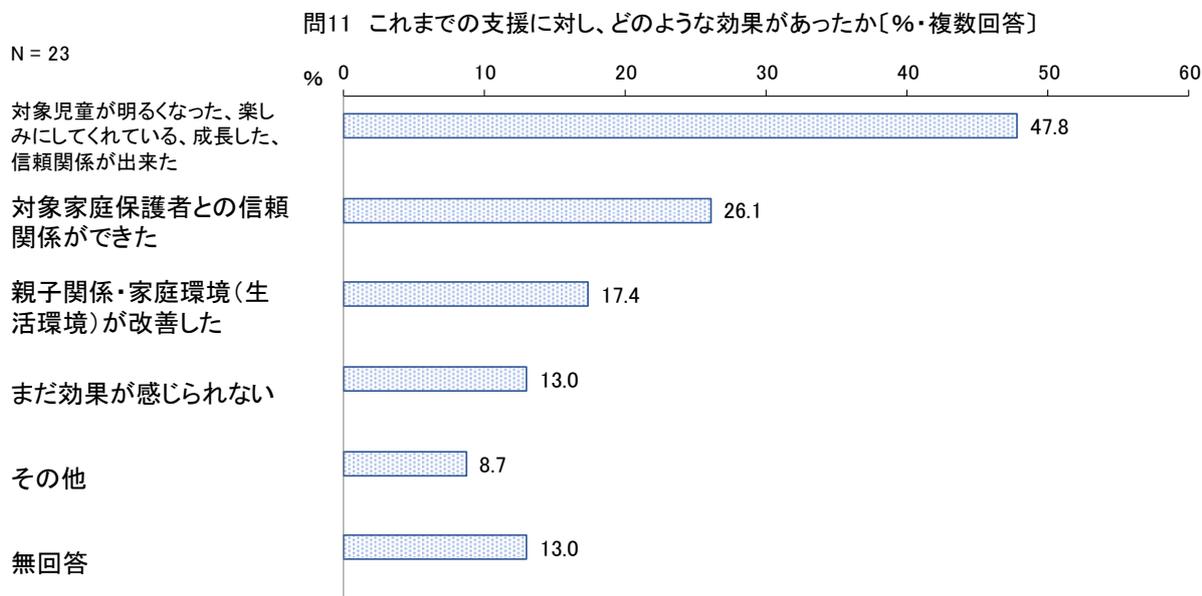
「保護者との接触、信頼関係づくりが難しい」が 52.2%、「困難な環境にある子どもを発見する仕組みがない」が 47.8%となっています。



その他では、「ボランティアの確保の問題。多い時期もあれば、学生などはテストや帰省や進級・卒業などで極端に減る時期がある」、「支援の経験がない」や「関連機関へ繋いだ後の情報等がなく、その後の関わり方に不安が残る」などの記載があります。

問 11 これまでの支援に対し、どのような効果があったと思いますか（子どもの様子の変化など）。（意見を記述）

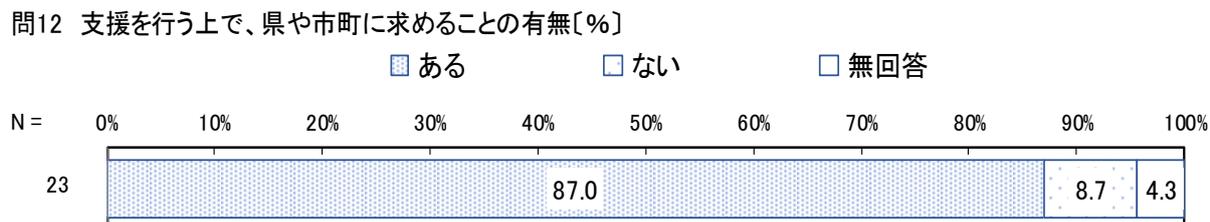
「対象児童が明るくなった、楽しみにしてくれている、成長した、信頼関係が出来た」が 47.8%、「対象家庭保護者との信頼関係ができた」が 26.1%、「親子関係・家庭環境（生活環境）が改善した」が 17.4%となっています。



その他では、「食堂を開いているときに頂いた食材を自由に持ち帰れるようにしている。欲しい人には手助けになっていると思う。」などの記載があります。

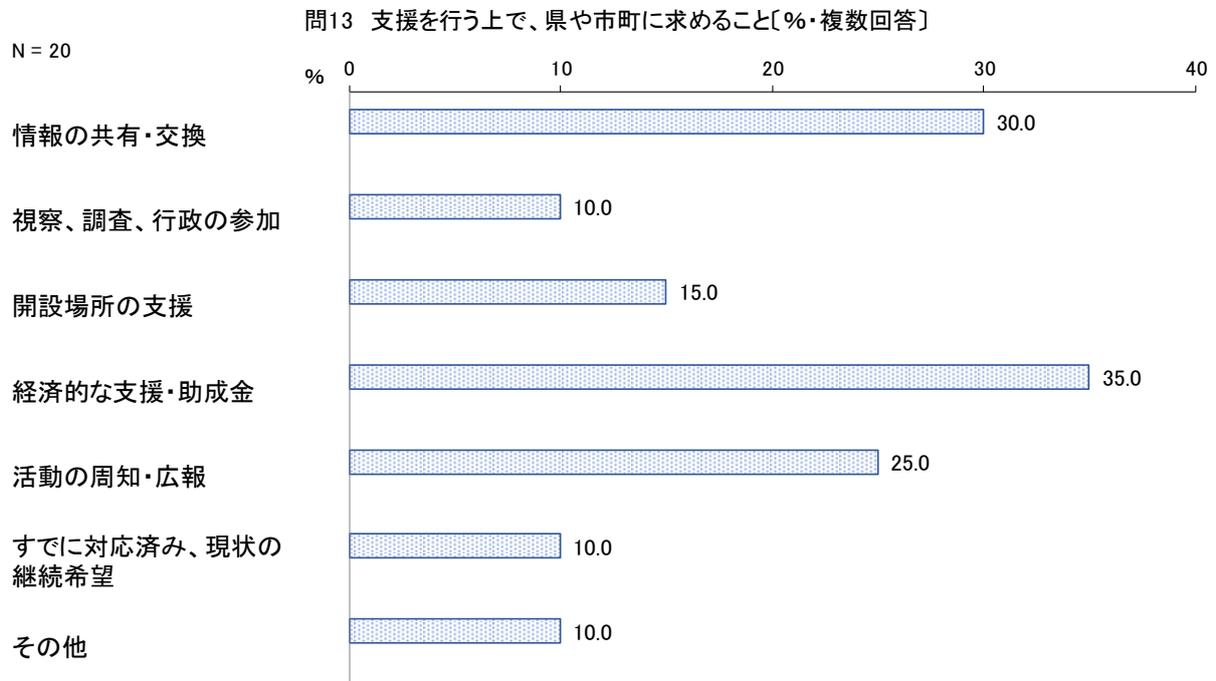
問 12 支援を行う上で、県や市町に求めること（施策や役割など）はありますか。（単一回答）

全体では、「ある」が 87.0%、「ない」が 8.7%となっています。



問 13 (問 12 で「1. ある」と答えた方のみ) 県や市町に求めることを、自由にご記入ください。

県や市町に求めることとして、「経済的な支援・助成金」が 35.0%、「情報の共有・交換」が 30.0%、「活動の周知・広報」が 25.0%となっています。



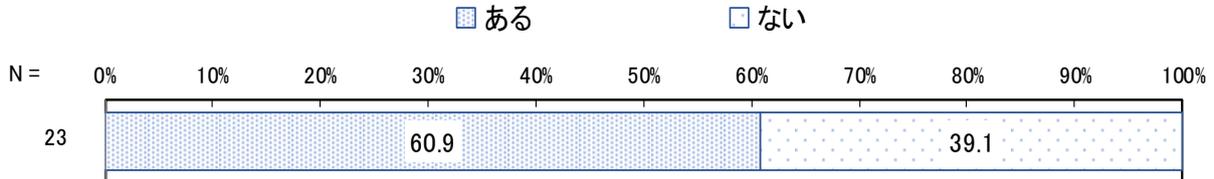
その他では、「市、社協など縦系列ではない支援者の連携が必要と思う」などの記載があります。

問 14 その他、困難な環境にある子どもやその家庭への支援について、ご意見やご提案などがありましたら、自由にご記入ください。(意見を記入)

「ある」が60.9%、「ない」は39.1%となっています。

意見や提案の内容は、関係機関との連携、子ども食堂、情報共有などに関する意見がみられます。

問14 困難な環境にある子どもや家庭への支援についての意見や提案の有無[%]



区 分	記入内容
関係機関との連携に関すること	支援している団体だけでなく、市や県、学校等様々な機関との連携も必要である。 このアンケートをもとに、県や市町が困難を抱える子どもたちをしっかりとサポートできる施策を積極的に導入し、NPOなど民間団体や地域の組織等と連携して、早急に取り組まれることを望む。
子ども食堂に関すること	子ども食堂を行政も全面的に支援しているということを、各学校で困難な状況にある保護者へ伝えてほしい。 マスコミ等の影響で開設当初は「貧困の子ども」が行くところと決めつけられ、白い目で見られていた。また、その影響で温かい環境と知り、幼児連れの親子が増えた。
情報に関すること	どのような子がいて、どう困っているのか実際に必要な支援の情報を共有する場があれば知りたい。 課題を抱えている子ども、家庭の発見が困難である。何を基準に判断すればよいのか。その際の声かけの事例があるとよい。
県・市町による支援に関すること	困難な環境にある家庭には、想像以上に細やかで継続的な見守りが必要である。 大きな問題がないからと特に支援をしないでいるうちに、子どもたちは着々と貧困の再生産へ向かってしまうと思う。 将来の山口県を担う人材になる子どもたちに充分にお金をかけてほしい。 市によって取組にバラつきがある。住む所によって子どもたちのチャンスに差が出ないように、県がしっかり後押しをしてほしい。
その他	環境などを意識しなくても、当たり前そこにあって、子どもたちがただ行きたいから行ける、そのような場所をつくることができると嬉しい。